

Q1.1 日の業務の流れについて教えてください。

1日で行う業務の流れとしましては、前日までにどのような業務を行うかという詳細を決めまして、その自分で決めた計画の流れに沿って1日の業務を行います。なので毎日同じような業務を行うということではなくて、例えば1日中実験室の中で過ごして試験をするということもありますし、研究の文献調査などでパソコン業務を続けることもありますし、申請書業務となりまして、デスクワークで事務室で主にいて、実験室で少し実験すると並行して行うこともあります。

Q2.お仕事の際、大切にされていることについて教えてください。

私自身大切にしていることなんですが、入社当時からやってみるということを大切にしております、一つでも何かやってみなければ得られないと思いますし、もし失敗してしまった場合でも、その失敗から得られることはあると思いますので、何か一つこれはやってみてもいいかなという根拠があれば、とりあえずやってみるということを心がけております。

Q3.製薬には様々な過程があると思うのですが、その様々な過程の中で薬品研究所は何をされていますか。全過程なのか、一部過程なのか教えていただけたら助かります。

(製薬には様々な工程があると思いますが、薬品研究所は何をされている場所ですか?)

当社では医薬品の開発と製造販売まで一連の業務を行っております、特に薬学研究所の中では、その中で医薬品を1から作るということを行っております。例えば、患者さんに使っていただけるような形にするという業務から、国の方に申請書を提出するんですが、その申請書を作成するという業務まで1連の流れを行っております。

Q4.現在このような研究がされているか、もし可能であれば教えていただきたいです。

私自身の研究内容としましては、現在は生薬の成分を配合した外用剤といたしまして、体の外に塗って使う軟膏剤を開発しておりますのと、あともう一つ、生薬の成分を配合した内服薬の開発を併せて行っております。

Q5.グループで研究されていると思いますが、現在幾つぐらいグループがありますか。また、他の研究をされている方同士、グループ同士等のつながりはあるのでしょうか。

当社でももちろんグループで実験を行うことはあるのですが、当社では特に一人に対して担当のテーマを与えていただきまして、それで上司がチーフとしてついてくださいますので、その上司と相談しながら治験を進めるということが多いです。また、実験に関してなんですが、その中で使う知識とか技術は共通してきますので、その点については同僚と相談しますので、同僚間や部署間での関係性は大きいかなと思います。

Q6.最近のトレンドである AI 技術のデジタル化というのがあると思うんですが、そういうのはどのように取り入れていらっしゃいますか。

当社では漢方や生薬という天然のものを扱っている会社ですので、長年の当社の業務の中で様々なノウハウが生まれてきております。これまでそういったノウハウというのは、人から人へ伝えて学んでいくということが多かったんですが、現在はその技術を映像化することに取り組んでおりまして、その映像を使って今後の新人の育成にも活かしていこうと考えております。

Q7.ホームページなどでエビデンスデータの収集がしっかり行われているという内容を拝読したのですが、漢方薬においてはランダム化比較試験の数が少なく信頼性が低いという話をよく耳にするのですが、御社では臨床試験などはどのように行われていますか。

ランダム化比較試験というのが新薬を開発するときとか、治療薬を新しく導入する時に効果があるのかということ調べる臨床試験になっておりまして、当社で扱っております漢方薬というのは、これまでの長年の経験に基づいて使われるものですので、漢方薬のランダム化比較試験というのはデータとして少ないのかなと考えております。ただ漢方薬の中には西洋薬にない効果が得られるものもありまして、そういった効果を確認するためにランダム化比較試験を行って、そのデータが最近積み重なってきているのかなと思います。

当社の製品は一般用医薬品として他にない、西洋薬にもない特徴的な製品開発をしておりまして、当社で言いますと動物実験だったり行って、当社の特徴的な製品のエビデンスを取るような実験も行っております。

Q8.ある統計データによると、漢方薬に効き目があると考えている方が半数を下回っている。特に若い方でその傾向が強いとのことなんですが、これについて御社はどのようにお考えでしょうか。また、若い人が漢方薬に興味を示すためにはどのようなことが必要だと思われるか。

漢方薬よりも西洋薬というのは即効性が良くて効き目が強いという薬になっていまして、それに比べますと漢方薬というのはゆっくりと優しく効く薬ですので、その点においてあまり効果がないと感じられる方がいらっしゃるのかなと思っております。ただ漢方薬によりまして、病気の状態によっては良く早く効くものもございまして、また、西洋薬にはない難しい病気に対して、西洋薬よりも効くという効果が見られるものもありますので、そういうデータを若い人にも見ていただきますと、あっと驚くような経験ができて、若い人にも漢方薬についてより使っていきたいなと感じていただけるのかなと思っております。

Q9.共生が基本理念として掲げられているということをお聞きしたのですが、実際に働いている中で意識されていることがありますでしょうか

共生といいますと、それぞれの方の立場に立って考えて行動するということがかなと考えておりました、私が行っております医薬品の開発につきましても、まずは飲んでいただく方の立場に立って使いやすい薬を作るということはもちろんなんですけれども、製造の立場に立ちまして、その方が作りやすい薬を作るといことも考えて行っております。なのでその薬を使う方や作る方、また売っていただく方のそれぞれの立場に立って薬を開発するということを心がけております。

Q10.この仕事をしていてよかったと思う瞬間などがあれば教えていただきたいです。

当社での医薬品開発の業務なのですが、薬を1から作るというところから申請書を作成して国の方に申請するという一連の流れを体験することができます。また、当社では漢方生薬という特徴的な製品を扱っておりますので、他では学ぶことのできないような特徴的な技術とか知識を得られることができまして、そういったところでは入社してよかったかなと思ってございます。

Q11.入社前と入社後で働いてみて、イメージが変わったことなどありますか。

私は入社する前には、研究職というのは一人でコツコツと研究するのがメインかなと考えていたのですが、当社では良い意味でそういうイメージが崩れまして、自分で実験のテーマを進めていくんですが、その中でも上司や周りの同僚によく相談して、よく話し合いながら進めていくので、研究職というのは一人でコツコツするというよりも、私にとっては周りとの相談しながらみんなで進めていくというのが研究職かなと思えました。

Q12.私たち薬学部生の先輩として質問したいのですが、女性研究者や製薬業界を目指す学生に対するアドバイスをいただけたらとても嬉しいです。特に学生時代に取り組むべきことや必要なスキル等について教えていただきたいです。

私が元々製薬業界の方で働きたいと考えておりました、その中でも製薬業界の研究職として働きたいと元々考えておりました。その中でも薬の知識を持って製薬業界の研究職として働きたいと考えておりましたので、皆さんと同じ薬学部、6年制に入って薬剤師の資格を取って研究職として働いております。学校の中で学ぶ知識の中でも様々なことを生かされているなど感じているのですが、現在使っている知識で言いますと、学校の中で学んだ法律であったりもそうですし、学校の実験とか、あと研究所に配属された時の実験のスキルとかも今かなり使って業務を進めておりました、学校で学ぶことに関しては一つ一つきっちり学んでおくことで、どこの分野でその知識が活用できるかということはその時には分からないと思うのですが、全て必要な知識かなと思うので、学んでいることは一つ一つ学んでいただけたらなと思います。